



川上高司

● 4 ●

かわかみ たかし 1955年、熊本県生まれ。拓殖大学海外事情研究所所長。大阪大学博士(国際公共政策)。フレッチャースクール外交政策研究所研究員。世界平和研究所研究員。防衛庁防衛研究所主任研究員。北陸大学法学部教授などを経て現職。著書に『米軍の前方展開と日米同盟』(同文館出版)、『アメリカ世界を読む―歴史を作ったオバマ』(創成社)など。

の岩礁埋め立てに「懸念」を伝えた。だが、習氏は「適切に処理する」と明確な回答。そこで問われるのが、安倍晋三政権の南シナ海に対する姿勢だ。今回改定された日米ガイドラインで、米国は自衛隊との共同で哨戒活動を期待する。自衛隊はP3C哨戒機を70機保有している。さらに次期哨戒機P1を18年度までに23機購入する。

までは、2016年の次期米大統領選挙の争点となる(ラッセル米國務次官補)。そこで問われるのが、安倍晋三政権の南シナ海に対する姿勢だ。今回改定された日米ガイドラインで、米国は自衛隊との共同で哨戒活動を期待する。自衛隊はP3C哨戒機を70機保有している。さらに次期哨戒機P1を18年度までに23機購入する。

安倍外交の喫緊の課題は、何と言っても南シナ海である。今回の日米ガイドラインで、自衛隊はグロバルに米軍に協力することが明記された。

南シナ海では、中国と台湾、フィリピン、マレーシア、ブルネイ、ベトナム、インドネシア諸国が、それぞれ領有権を争っている。そこで、中国

は南シナ海のほぼ全域を囲む9つの線からなる「九段線」(赤い舌を引き、南シナ海の大部分は自国の領海だと主張し、島嶼(とうしょ)の浅瀬を埋め立てて人工島を建設している。現在、ヒューズ(東門)礁、ジョンソン南(赤爪)礁、ガベン(南蕙)礁、フィアリークロス(氷薯)礁、クアテロン(華陽)礁など7カ所で建設が進行中とされる。ここにリーダー網が構築され、中国の艦船や軍用機が駐留し、防空識別圏(ADIZ)が設定されるのは時間の問題だろう。

「九段線」は「国際海洋法に合致しない」との報告書を昨年末に出し、中国に警告を行った。ケリー米國務長官は今日17日、習近平國家主席に会い、中国の懸念は広がる。

米国はこれまで、南シナ海での領有権争いで中立の立場を取ってきたが、今後、中国の建設した人工島近海に米艦艇を航行させる可能性もある。このま

### 余裕なき哨戒機

南シナ海では、中国と台湾、フィリピン、マレーシア、ブルネイ、ベトナム、インドネシア諸国が、それぞれ領有権を争っている。そこで、中国

は南シナ海のほぼ全域を囲む9つの線からなる「九段線」(赤い舌を引き、南シナ海の大部分は自国の領海だと主張し、島嶼(とうしょ)の浅瀬を埋め立てて人工島を建設している。現在、ヒューズ(東門)礁、ジョンソン南(赤爪)礁、ガベン(南蕙)礁、フィアリークロス(氷薯)礁、クアテロン(華陽)礁など7カ所で建設が進行中とされる。ここにリーダー網が構築され、中国の艦船や軍用機が駐留し、防空識別圏(ADIZ)が設定されるのは時間の問題だろう。

「九段線」は「国際海洋法に合致しない」との報告書を昨年末に出し、中国に警告を行った。ケリー米國務長官は今日17日、習近平國家主席に会い、中国の懸念は広がる。

米国はこれまで、南シナ海での領有権争いで中立の立場を取ってきたが、今後、中国の建設した人工島近海に米艦艇を航行させる可能性もある。このま

### 日米同盟の抑止力低下も 自衛隊投入厳しい判断

中国の岩礁の埋め立てを激しく非難した。米国も、中国の「九段線」は「国際海洋法に合致しない」との報告書を昨年末に出し、中国に警告を行った。ケリー米國務長官は今日17日、習近平國家主席に会い、中国の懸念は広がる。

米国はこれまで、南シナ海での領有権争いで中立の立場を取ってきたが、今後、中国の建設した人工島近海に米艦艇を航行させる可能性もある。このま

米国はこれまで、南シナ海での領有権争いで中立の立場を取ってきたが、今後、中国の建設した人工島近海に米艦艇を航行させる可能性もある。このま

米国はこれまで、南シナ海での領有権争いで中立の立場を取ってきたが、今後、中国の建設した人工島近海に米艦艇を航行させる可能性もある。このま

### 地域が世界的か

南シナ海に防衛識別圏を設けた場合、中国軍と自衛隊の哨戒機がにらみ合うことになり、中国を刺激する。

南シナ海に防衛識別圏を設けた場合、中国軍と自衛隊の哨戒機がにらみ合うことになり、中国を刺激する。

南シナ海に防衛識別圏を設けた場合、中国軍と自衛隊の哨戒機がにらみ合うことになり、中国を刺激する。

南シナ海に防衛識別圏を設けた場合、中国軍と自衛隊の哨戒機がにらみ合うことになり、中国を刺激する。

### 安倍政権に問われるのは、限られた自衛隊のアル

は、限られた自衛隊のアル(東シナ海)で日米同盟の抑止力が確保できるのかどうかの厳しい判断に迫られる。

は、限られた自衛隊のアル(東シナ海)で日米同盟の抑止力が確保できるのかどうかの厳しい判断に迫られる。

は、限られた自衛隊のアル(東シナ海)で日米同盟の抑止力が確保できるのかどうかの厳しい判断に迫られる。

は、限られた自衛隊のアル(東シナ海)で日米同盟の抑止力が確保できるのかどうかの厳しい判断に迫られる。



中国が主張する九段線